

愛知県名古屋市中区丸の内(旧呉服町)方言の立ち上げ詞

太田 有多子

I. はじめに

①調査対象地：名古屋市は愛知県西部、濃尾平野の中央に位置し、伊勢湾に面している。江戸時代より、商業都市として栄えており、東海地方の中心地で、人口は2005年現在221万余人である。名古屋市の中心地は太平洋戦争の戦火に遭い、そこで使われていた「上町言葉」はほとんど消滅し、現在では主に市内でも農村部だった地域の言葉が名古屋の言葉として使われている。本稿では、かつての上町である商家で生まれ育った話者の言葉をまとめる。

②調査年月日：2005年5月12日 午後1時から3時まで
6月22日 午後1時から4時まで

③話者：平林信子（大正14年生まれ）

④調査者・調査場所：太田有多子・話者宅

⑤調査方法：統一調査票による質問調査

⑥その他：アクセントは棒引きアクセントで記す。話者の内省や調査者の注記は< >に記す。尚、<男>は特に男性使用表現を、<女>は特に女性使用表現を意味する。音声表記について、[æ̃] はエアー、[ø̃] でオエーで表す。

II. 調査結果

I (1) どっこいしょ。一休みしよう。

○ドゥッコイシヨ。ヤスモメアー（どっこいしょ。休もう）<話者：多くはドゥッコイシヨのみ言う>

I (2) どうれ。出かけることにしよう。

○ヤレヤレ。ドゥッコイシヨ（やれやれ。どっこいしょ）<話者：独り言であればヤレヤレドゥッコイシヨのみ言う>

I (3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

○ヤーレヤレ。ヤットツイタワー（やれやれ。やっと着いたよ）／ハー ヤレヤレ。ヤットツイタワー（はあ、やれやれ。やっと着いたよ）

I (4) しまった。もうちょっとで落ちるところだった！

○ウヒャー。オチルトコダッタ（うひゃー。落ちるところだった）<話者：シマツタは言わない>

I (5) くわばらくわばら。恐ろしかった！

○アー。ピックリコエータ（ああ。びっくりした）<話者：クワバラクワバラは先代女性から聞いたことがある>

I (6) しめた！今度の魚は大きいぞ。

○ア。カカトル カカトル (あ。掛かっている、掛かっている)

I (7) ままよ。飛び越えるしかない。

○マーエーワ。オモエーキッテトンデミルワー (もういいよ。思い切って飛んでみるよ)

I (8) なにくそ! 負けてなるものか。

○ナーニガー。マケセンデー (何よ。負けないよ) / ナニイッテリヤース。ワシダッテヤルワサー (何を言っているの。私だつてやるよ) / ナニコエートル。カツゾー (何を言っている。勝つよ) <男> / ナニコキヤガル。オレガ カツガヤー (何を言っている。私が勝つよ) <農村部・男>

I (9) しめしめ! 誰も気がついていない。

○シメシメ (しめしめ) <多用> / シメター (しめた)

I (10) ちえっ。つまらないなあ。

○ヤレヤレ。エレアーコッタガナー (やれやれ。大儀なことだね) <多用> / ウヒヤー (うひゃ) / ウヤア (うやあ) / チェッ (ちえっ) <男>

I (11) ちくしょう! 仕返しをしてやる。

○コンチキシヨ。オボエテレアーヨ (こん畜生。覚えとれよ) / チキシヨ。ヤツタルゾー (畜生。やり返してやるよ) <男> / ナニコイトル。ヤツタロカー (何を言っている。やり返してやろうか) <男>

I (12) くそっ! 覚えている!

○クゾー。オボエテレアーヨ (くそ。覚えてなさいよ) / クゾッ。オボエトレー (くそ。覚えているよ) <男>

I (13) おやおや。いったいどうしたの?

○アレアレ。ドーシテマッタノー (あれあれ。どうしてしまったの) <話者: オヤオヤは言わない>

I (14) えへん、えへん。(我輩は村一番の力持ちじゃ。)

○エツ。セツメーシタゲルワ (ええと。説明してあげるよ) <女> / エー下。セツメーシタゲルワ (ええと。説明してあげるよ) <女> / エーッ。セツメーシタゲルワ (ええと。説明してあげるよ) <男>

I (15) はてな。ここはどこだろう?

○アレーッ。マヨッタケアーナー。ココ ドコダッタイナー (あれ? 迷ったかな。ここはどこだったかな)

II (16) はい。承知いたしました。

○ヘエ (はい) <話者: ヘエのみである。但し、電話の受け答えはヘエヘエ>

II (17) はい。宜しゅうございます。

○ヘエ。ヨーゴゼアーマス (はい。よろしゅうございます)

II (18) ええ。ここに居ます。

- ヘエ。ココニオリマス (はい。ここにあります)
- II (19) んだ。私の傘です。
- ホン。ワタシノ (はい。わたしのだ)
- II (20) さよう、さよう。あなたの言う通り。
- ホーダ、ホーダ。アンタノイヤーストーリダガネ (そうだ、そうだ。あなたの言うとお
りだよ)
- II (21) はいきた。おやすいご用です。
- ホーホー エーヨ。マケアートエーデ (ほおほお、いいよ。任せておいて)
- II (22) よっしゃ。やりましょう。
- ヨッシー。イッペン ヤッテミルワ (よし。一度、やってみるよ)
- II (23) よしきた。お引き受けいたしましょう。
- ヨーシヨシ。ヤラシテマウワネ (よしよし。やらせてもらうね)
- II (24) がってんだ。一緒に行きましょう。
- ヨーシヨシ。イコメアーカー (よしよし。行こうか)
- II (25) かつぱのへだ。簡単だ。
- ヘーキヘーキ。ドーツデコト ネアーワ (平気平気。どうってことないよ) <多用>/
ヘノカッパダワー (へのかつぱだよ)
- II (26) いえいえ。とんでもございません。
- イーエ。ドーシマシテ (いいえ。どういたしまして)
- II (27) なんの。たいしたことではございません。
- ナーニガ ナニガ。ホンナコト イッテモラウヨナコトデ ネアーガネ (何が、何が。
そんなこと(礼)を言ってもらうようなことではないよ) / ナーニイヤースアスワス (何
をおっしゃいます) <古>
- II (28) なあに。擦り傷ぐらい、すぐ治るさ。
- ナーニー。ジッキト ナオルガネー (何。すぐに治るよ)
- II (29) なにさ。いつも調子の良いことばかり言って!
- ナーニー。カッテナコトバッカイッテ (何。勝手なことばかり言って)
- II (30) いやはや。とんだ目に遭いました。
- マー。エレアーマニアッタワ (まあ。大変な目に遭いましたよ)
- II (31) へん。勝手にしやがれ。
- ホン。エーワ (ふん。いいよ)
- II (32) なめるんじゃねえよ。こいつ!
- トーレエーコト イットツテカンニー (くだらないこと言っていてはいけないよ) / ト
ーレエーコト イヤースナヨ (くだらないこと言うなよ) / トーレエーコト コイトルナ
ヨ (くだらないこと言っているなよ) <男>/バカニスルナヨ (馬鹿にするなよ)

II (33) 冗談じゃない。口から出任せを言って!

○ジョーダン イヤースナヨ (冗談を言うなよ) / ジョーダン ユーナヨ (冗談を言うなよ) <男> / ジョーダン イツテカンノ (冗談を言っでは駄目だ) <女・かなり強い口調>

II (34) だまらっしゃい。出鱈目ばかり言って!

○ダマツテレア。エーカゲンナコトバッカ イワシテ (黙っていなさい。いい加減なことばかり言って) / ダマツテレア。エーカゲンナコトバッカ イワント (黙っていなさい。いい加減なことばかり言わないで)

II (35) そうは間屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソーワ トンヤガ オロサンニ (そうは間屋が降ろさないよ) / ソーワ トンヤガ オロセセンニ (そうは間屋が降ろしはしないよ) / ソーワ トンヤガ オロサスカ (そうは間屋が降ろすものか)

II (36) うそもへちまもありやしねえ。我慢できねえ。

○クソモヘッタクレモ アルモンカ (くそもへったくれもあるものか) <多> / ウソモヘチノアダマモ アルモンカ (嘘も鉢の頭もあるものか) <男> / ウソモヘチマモ アレセンガネ (嘘も糸瓜もないよ) <女>

II (37) 寝言は寝て言え。このやろう。

○ネゴトノヨーナコトバッカ イーヤガツテ ネゴトワネテイエー (寝言のようなことばかり言って、寝言は寝て言え) <男>

II (38) あたりきしやりきのけつの穴。当たり前だ!

○ソノトーリ ソノトーリ (その通り、その通り) <女> / ソーダ ソーダガヤー (そうだ、そうだよ) <男> / アタリキシヤリキ (あたりきしやりき) <男>

II (39) 奇妙きてれつだ。それは変だ。

○キミョーキテレッツダネー (奇妙奇天烈だね) / キミョーダネー。ヘンダネー (奇妙だね。変だね) <女>

II (40) ほほう。それは親孝行なお子さんですね。

○ホーカネ ホーカネ。オヤコーコデエーネー (そうかね、そうかね。親孝行でいいね)

II (41) まいったまいった。仕方がない。

○ビックリ ビックリ。シツカタネアーネー (びっくり、びっくり。仕方がないね) <女> / ビックリコエータネー (びっくりしたね) <女> / マイッタ マイッタ (参った、参った) <男> <話者: 驚いても感心しても感激してもうんざりしてもビックリを使う>

III (42) もしもし。すみません。役場はどこにありますか。

○アノー。スイマセンガ ヤクバワ ドイフューニイッタライーデスカネー (あの。済みませんが、役場はどのように行ったらいいですかね)

III (43) のうのう。旅の人。お立ち寄り下さい。

○チヨット チヨット。オキヤクサン。マー ヨッテッテチョーデアー (ちよっと、ちよっと。お客さん。まあ、寄って行ってください) / モシモシ。ドーゾ。ヨッテッテチョーデアー (もしもし。どうぞ。寄って行ってください) <古><話者:知っている人に対してはチョーット チヨット。マー エーガネ。ヨッテッテチョーデアー (ちよっと、ちよっと。まあ、いいでしょ。寄ってください) >

Ⅲ (44) ほら。ご覧なさい。向こうに公園があります。

○チョーット。ミテ ミテ。アスコニ コーエンガ アルガネー (ちよっと。見て、見て。あそこに公園があるよ) / チヨット チヨット。ミテ。アソコニ コーエン アルガネー (ちよっと、ちよっと。見て。あそこに公園があるよ) / ホレホレ。アレ ミテゴラン。アスコニ コーエンガ アルガネー (ほれほれ。あれを見てごらん。あそこに公園があるよ)

Ⅲ (45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ?

○チョーット。コノハヨカラ ドコイキヤース (ちよっと。こんな早くからどこへいらっしやいますか?) <女> / ヤヤ。コノハヨカラ ドコイク (やいやい。こんな早くからどこへ行くの?) <男>

Ⅲ (46) よう。兄弟。これから何をするつもりだい?

○イヤ。アンタ。イマカラ ナニスルノー (いやあ。あなた。今から何するの?) <女> / ヨヨ。コレカラ ドースルー (ようよう。これからどうするの?) <男>

Ⅲ (47) いざ。さらば。

○ホンナラ。サヨーナラ (それなら。さようなら) / ホンナラネー (それならばね) <気楽な表現> / ホンナラ。ドーモ (それなら。どうも) <気楽な表現> / ホンナラ。ゴブレシマス (それなら。ご無礼します) <丁寧な表現>

Ⅲ (48) ささ。ご遠慮なく、召し上がって下さい。

○サササ。ドーゾ (さあさあさあ。どうぞ) / ササ。ドーゾ メシアガッテチョーデアー (さあさあ。どうぞ 召し上がってください) / マーマー。イッペン イップクシテチョーデアー (まあまあ。一度一服してください)

Ⅲ (49) さて。そろそろ一服しませんか。

○ホンナラ。ココラデ イップクシヨーカーネー (それなら。ここらで一服しようかね) <女> / ホンジャー。ココラデ イップクシヨメアーカ (それならば。ここらで一服しましょうか) <男>

Ⅲ (50) これこれ。ちよっと静かにしなさい。

○ (目下に対して) コレコレ。オトナシューシャーカ (これこれ。大人しくしないか) <女> / (同等に対して) ホレホレ。シズカニシャーカ (ほれほれ。静かにしないか) <女> / (同等に対して) ホレホレ。シズカニセンカ (ほれほれ。静かにしないか) <男>

Ⅲ (51) おい。こら。万引きをしてはいけないよ。

○チヨット チヨット。ナニヤレアース (ちよつと、ちよつと。何をしなさる) / オイ。
チヨット。ナニヤルンダ オメアー (おい。ちよつと。何をやるのだ、おまえ) <男>

Ⅲ (52) おどりゃあ。いい加減にしないか!

○チョーット。オメアーサンタチ エーカゲンニシャーヨー (ちよつと。おまえさん達、
いい加減になさいよ) <女> / オイ コレコレ。オメアーラー エーカゲンニセンカ (お
い、これこれ。おまえ達、いい加減にしないか) <男>

Ⅲ (53) おのれ。裏切りやがったな。

○クッソー。ウラギラレテマッタ (くそ。裏切られてしまった) <女> / クッソー。ウラ
ギヤガッター (くそ。裏切って) <男>

Ⅲ (54) どっこい。その手には乗らない。

○ホーソナモン。ソフテニノセラレセンデカンワー (そんなもの。その手には乗らないか
ら駄目だよ) <多用> / ホーソナモン。ソフテニノラスカ (そんなもの。その手に乗るも
のか)

Ⅲ (55) どうだ。参ったか?

○ドーダ。メアッタカー コーサンカー (どうだ。参ったか、降参か)

Ⅲ (56) せい。よいしょ!

○イ 三ノサン (一、二の三)

Ⅲ (57) ようい。どん!

○ヨイ。下ン (用意。どん)

Ⅲ (58) いっせいの、で!

○イ 三ノサン ヨッ (一、二の三、よいっしょ)

Ⅲ (59) よいしょ、よいしょ。もう一息だ。

○ヨッコシヨ ヨッコシヨ。マ チヨコットダー (よっこいしょ、よっこいしょ。もう
少しだ) <多用> / ヨッコシヨ ヨッコシヨ。マ スゴシダー (よいしょ、よいしょ。もう少
しだ)

*坂道を押し上げる時: 下ッコシヨ 下ッコシヨ (どっこいしょ、どっこいしょ)

Ⅲ (60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ントコラセー ントコラセー。マ チヨコットヒツパレー (うんとこらせ、うんとこ
らせ。もう少し引っ張り) <多用> / ントコラショー ントコラショー (うんとこらしよ、
うんとこらしよ) <聞>

Ⅲ (61) わっしょい、わっしょい。お祭りだ、わっしょい。

○エッチ エッチ エッチ エッチ (えっちら、えっちら、えっちら、えっちら) / ワッ
シヨ ワッシヨ (わっしょい、わっしょい) <聞>

Ⅲ (62) はじめはぐう、じゃんけん、ぽん! あいこでしょ。

○インチャン ホイ (じゃんけん、ほい) <古>/ジャンケン ホイ (じゃんけん、ほい)
<聞>/ジャンケン ポイ (じゃんけん、ほい) <聞>

*あいこになった場合：マッペン (もう一度) <古>/アイコデ ホイ (あいこで、ほい)
<今>/アイコデシヨ (あいこでしょ) <今>

Ⅲ (63) きをつけえ、前へならえ、なおれ。

○キオツケー マエーナラエ ナオレ ヤスメ (気を付け、前に倣え、直れ、休め) /キ
オツケー マエーナラエ ナオレ チューモク (気を付け、前に倣え、直れ、注目) <今
>

Ⅲ (64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ レー チャクセキ (起立、礼、着席)

Ⅲ (65) ばんざい、ばんざい。やった、やった!

○エレアー エレアー エレアカッタ (立派、立派、立派だった)

Ⅲ (66) えいえいおう。頑張るぞ。

○エイエイオー (えいえいえおう) <戦後><話者：戦前は氣勢を上げるかけ声はなかった>

Ⅲ (67) (中村君の誕生日を祝して) かんぱい。おめでとう。

○カンペアー (乾杯)

Ⅲ (68) やっほう、やっほう。

○オーイ オーイ (おおい、おおい) <多用>/バンゼアー (万歳) <戦前>/ヤッホー
(やっほう) <戦後>

Ⅲ (69) ふれえ、ふれえ。白組。

○シロヨ アカヨ (白よ、赤よ) <古><話者：古くはフレー フレーとかガンバレ ガ
ンバレとかは言わない>/ガンバレ ガンバレ。シーローグミ (がんばれ、がんばれ。白
組) <戦後>/シロ シロ アカ アカ (白、白、赤、赤) <最近・聞>/シロ ガンバ
ッター。アカ ガンバッター (白、頑張って。赤、頑張って) <最近・聞>

Ⅲ (70) 鬼は外、福は内。

○ (室内の四方へ) フクワーウチ (福は内) (4回繰り返す) (家の表か裏の外に向け
て) オニワート (鬼は外) (1回言って、急いで戸を閉める)

Ⅲ (71) べらぼうめ。とんでも無い子だ。

○コレー エーカゲンニシャーカー。オーチャクデ ドーショモネアーコダワ (これ、い
い加減にしないか。腕白でどうしようもない子だよ) /コレー エーカゲンニセンカ。オ
ーチャクデ ドーショモネアーワネ (これ、いい加減にしないか。腕白でどうしようもな
いわね)

Ⅲ (72) それみたことか。わんぱく坊主。

○ソーレミヤー キズシタデネアーノ。オーチャクポー (それ見なさい、傷したではない

か。腕白坊主)

Ⅲ (73) ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ホレミヤ一。ホンダデ イワンコトデネア一ニ (それ見なさい。それだから言わないことでないよ)

Ⅲ (74) ちくしょうめ。ひどいことを言いやがる。

○クツメ一。ヒ一デーコト イワシテ (糞め。ひどいこと言って) <女>/コンチキショ一。ヒ一デーコト イヤガッテ (こん畜生。ひどいこと言って) <男>

Ⅲ (75) このやろう。どうしてくれようか。

○コレ。ポッテモ ポッテモ ヨッテクルデネ一 (これ。追い払っても、追い払っても、寄って来るからね) <女>/コラー。ナンベンポッテモ ヨッテケツカル (こら。何度追い払っても、寄って来る) <男>/コラー。ナントカシテ ポッタラナ カン (こら。なんとかして、追い払ってやらないといけない) <男>

Ⅲ (76) たわけ。ふざけた事を言うんじゃない。

○コレ。ナンベンイッタラワカルノ ケガシテモシランデー (これ。何度言ったらわかるの、怪我しても知らないよ) /ナンベンデモ ナンベンデモ タワケタコトバッカイッテ一。ソノウチ ド一ナッテモシランニ一 (何度でも、何度でも、たわけたことばかり言って。そのうち、どうなっても知らないよ)

Ⅲ (77) ばかやろう。いい加減なことを言うな。

○コーレ。エ一カゲンナコトバカイヤ一スナ (これ。いい加減なことばかり言いなさるな) <女>/ターケー。エ一カゲンナコトバッカユ一ナー (たわけ。いい加減なことばかり言うな) <男>

Ⅲ (78) あなかま。静かにしなさい。

○ヤッカマシ一。シズカニシヤ一 (騒がしい。静かにしなさい)

Ⅲ (79) しいいっ。静かにして!

○シ一。シズカニシヤ一 (しい。静かにしなさい)

Ⅲ (80) ちちんぷいぷい。蛙、蛙、生き返れ。

○チチンブイ (ちちんぷい) <話者:相手に何か珍しいものを見せる時に得意げに言う>/チチンブイブイブイブイ (ちちんぷいぷいぷい) <話者:怪我をして泣いている子供の気持ちを紛らす時に言う>

Ⅲ (81) あっかんべい。鬼さん、こちら。

○アカベ一 (あかんべえ) <話者:子供同士で、冗談とする「嫌だ」という意思表示>

Ⅲ (82) あっばれ。お見事。立派です。

○エレアカッタ エレアカッタ (立派だった、立派だった) /エレア一 エレア一 (立派、立派)

Ⅲ (83) でかした、でかした。日本一。

○エレアカッタ エレアカッタ。ヨー ヤラシタワ。リップナモンダ（立派だった、立派だった。よくやったよ。立派なものだ）＜女＞／デケアータ デケアータ。ニッポナイチ（でかした、でかした。日本一）＜男＞

Ⅲ（84）しっけい！すみません。

○アー エレアコト ヤッテマッテ スイマセンデシタ（ああ、とんでもないことをしてしまって、済みませんでした）

Ⅲ（85）あばよ。達者でな。

○サヨナラー。オゲンキデー（さようなら。お元気で）＜女＞／ドーゾ。オマメニネー（どうぞ。お達者でね）＜女・古＞／ジャー。キーツケテ ヤッテチョーヨ（では。気をつけて過ごしてくださいよ）＜男＞＜話者：男性はドーゾを使わない＞／フンナラ。マーゲンキデナー（それなら。まあ、元気でね）＜男＞／ホンナラ。マメニヤッテチョーデー（それなら。達者に過ごしてください）＜男＞

Ⅲ. まとめ

◎直接的な感情から発せられる感声音について

感動を表す「立ち上げ詞」の中には、直接的な感情から発せられる感声音ともいえる「立ち上げ詞」があるが、Ⅰ. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」では、ハー・ウヒャー・アー・ア・ウヤア・ウヒャー・チェッ・エーッがでた。この中には、名古屋方言の独特といえる音はなかった。

◎繰り返し語について

本調査では、自己発話からも他者への発話からも多くの繰り返し語がみられた。Ⅰ. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」ではヤレヤレ・ヤーレヤレ・シメシメ・アレアレがでた。Ⅱ. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」ではホーダホーダ・ホーホー・ヨーシヨシ・ヘーキヘーキ・ナーニガナーニガ・ソノトーリソノトーリ・ホーカネホーカネ・ビククリビククリ・マイッタマイッタがでた。Ⅲ. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」では、祭りなどでのかけ声であるヨッコシヨッコシヨ・ヨッシヨヨッシヨ・ドッコシヨドッコシヨ・ントコラセーントコラセー・ントコラシヨントコラシヨ・エッチエッチエッチエッチ・ワッショワッショ・オーイオーイ・ガンバレガンバレ・シロシロアカアカを除いた中で、チョットチョット・モシモシ・チョーットチョット・ホレホレ・ヤヤ・ヨヨ・ササ・マーマー・コレコレ・エレアーエレアー・エレアカッタエレアカッタ・デケアータデケアータがでた。ⅡやⅢのような他者の存在によって、より強調される発話や応答では、強調ともなる繰り返し語が多く出るようだ。

◎地域性のある表現について

設問によって、「立ち上げ詞」とその後が続く表現とが密接なものもあるが、ここでは、機械的に切り離して、「立ち上げ詞」の部分の表現に名古屋方言の特徴のあるものを取り

上げた。I (7) マーエーワ。I (8) ナーニガー／ナニイッテリヤース／ナニコエートル／ナニコキャガル。I (11) ナニコイトル。II (27) ナーニイヤースアスワス。II (32) トーレアーコト イットッテカンニー／トーレアーコト イヤースナヨ／トーレアーコト コイトルナヨ。II (33) ジョーダン イヤースナヨ。／ジョーダン イッテカンノ。II (34) ダマツレアー／ダマツレアー。II (35) ソーワ トンヤガ オロセセンニ／ソーワ トンヤガ オロサスカ。II (36) ウソモヘチマモ アレセンガネ。II (38) ソーダ ソーダガヤー。III (61) エッチ エッチ エッチ エッチ。III (62) インチャンホイ。III (65) エレアー エレアー エレアカッタ。III (72) ソーレミヤー。III (73) ホレミヤー。III (77) ターケー。III (82) エレアカッタ エレアカッタ／エレアー エレアー。III (83) エレアカッタ エレアカッタ／デケアータ デケアータなどである。

◎階層的特徴を持つ「立ち上げ詞」

II (16) (17) (18) の応答「はい」にへエがでた。これは、話者の育った環境が商家であることによる。

◎性差のでた「立ち上げ詞」

III (75) (77) では、女言葉にコレ／コーレが、男言葉にコラーがでたことで、性差がみられた。「立ち上げ詞」のみから、明確な性差を見ることが出来たのはこの1点だけである。

最後に、この資料は、女性話者からの情報ということで、全体的に穏やかな表現となったかもしれないことに留意する。

(おおたうたこ 椋山女学園大学)